

学校だより

# プラタナス



令和2年12月4日(金)

市川市立市川小学校  
No.30 校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/ichikawa-sho>



## すべての人が幸せになるために…！

左の「ヘルプマーク」、この理解度はどの程度なのでしょうか。ヘルプマークとは義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々がバッグなどにつけて表示しています。そうすることで、配慮を必要としていることを周囲の人に知らせ、援助を得やすくなるように考えられて作成されたものです。マタニティマークが妊婦であることを知らせているのと同様の目的といえます。

例えば、電車の中で席を譲ってもらえる姿などをイメージするヘルプマークですが、着用していることで、緊急時に適切な対応を受けられるようになるわけです。

さて、先日『見えぬ内部障害に理解を』という見出しで、腎臓に重度の障害を抱える毎日新聞記者のコラムがありました。「優先席に座っていると、聞こえよがしに舌打ちされたり睨まれたりした」「きつくて吊り革にかろうじてつかまっても、譲ってもらえない。目が合うなり眠ったふりをされた」などの体験が綴られています。別の方からは、「優先席に座っていると、若いくせに座るなどと言われて傘で足を刺された」(心臓障害)、「歩くのでさえ精いっぱいだったのに、駅で車椅子ごと抱えるのを手伝うように頼まれた」(内臓疾患)、「車椅子でない私は、健常者の出来が悪い人程度に思われている」(自己免疫難病)といった声も聞かれます。

これを読むと、「わかっていてもできない現実」「理解と行動との乖離」を感じざるを得ません。学習が分かっている、必ずしも活用できるとは限らないということに似ているかもしれません。

身近では、7人掛けの電車の座席が5人で占められて、人が立っているという場面に遭遇します。

「もう少し左右にズレれば」「股を軽く閉じればもう一人が座れるのに」と思うこともしばしば。逆に狭いスペースに座って横にずれない人を何度も睨む場面もあります。中には気づいていない人、気づけない人、気づいても無視する人などがいるのかもしれない。大人も子供も相手を意識することで、もっと気持ちよく日常生活が遅れそうな気がします。そんなことを言う私も、気づかずに相手に嫌な思いをさせていることがきっとあるはずです。



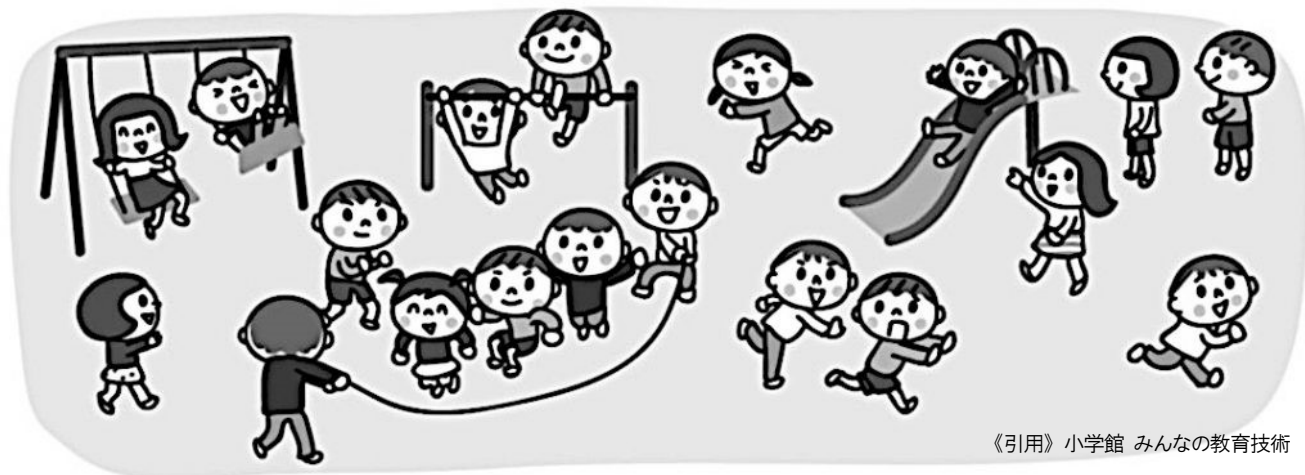
ヘルプマークやマタニティマーク、お年寄り等への対応だけでなく、普段の生活の中で「① 気づくこと」「② 無関心の第三者にならないこと」「③ 理解すること」「④ 行動すること」の4つはとても大事だと思います。昔、ACジャパンのCMに『すべての人が幸せになる。これを邪魔している最大の敵は、隣人への無関心ではないでしょうか』というのがあったのを思い出します。

友達の様子、家族の気持ち、そうした何でもないことでも穏やかに察知するアンテナと思いやりある言葉・行動を、小学生の頃からちょっとずつ磨いていけたらいいですね。

■ 裏面では、少し見方を変えて考えてみましょう

# 12月4日～10日は「人権週間」です

11月21日発行の広報いちかわに「人の数だけ違いがある」という見出しとともに、国籍・民族・障がいの有無・性別など、多様性を認め、自分らしく暮らせる地域社会づくりについて記されていました。昨今、LGBT（LGBTQ）といわれる性の多様性が話題にされ、意識と理解が深まってきました。



《引用》小学館 みんなの教育技術

さて、上の絵は小学校1年生の算数の教科書に出てきそうです。そして、「女の子が6人、男の子が13人公園で遊んでいます」「あわせて何人でしょう」「ちがいは何人でしょう」という問題が考えられます。あるいは、「女(男)の子は何人ですか」と尋ねる場面だってありそうです。

でも、ここでちょっと考えてみてください。本当に女の子は6人なののでしょうか？スカートを履いているのが女の子、髪が長いのが女の子という先入観で見えてしまって大丈夫でしょうか。見誤りが心配です。「そんなことを言い出したら算数の問題なんて解けないよ」と叱られてしまいそうですが…。

L (Lesbian) : 同性を好きになる女性  
G (Gay) : 同性を好きになる男性  
B (Bisexual) : 同性も異性も好きになる人  
T (Transgender) : 心と体の性が一致しない人  
Q (Questioning) : 性が明確でない人  
意図的に決めていない人

数年前に、トランスジェンダーの方の講演を聞く機会がありました。「将来的にもつながっていく家族にはカミングアウトしにくい。むしろ友達などいつでも切ることができる関係の方が話しやすい」といいます。

広報誌にもありますが、不安はトイレや更衣室、旅行、住居の契約時など常に身近にあります。嘘をつき続けていることに罪の意識を感じる人も少なくないようです。

広報誌のインタビュー記事の中には、次のような言葉がありました。

- \* 性別や性的指向を、他人事でなく自分事として一緒に考えてもらえると嬉しい。
- \* 目の前にいるこの人は、もしかして同性パートナーがいるかもしれない、恋愛対象が同性なのかもしれない、と少しでも考える余地をもってもらいたい。理解してほしいとまでは言わないが、存在していることを知ってほしい。実際にカミングアウトするときは人を選ぶ。差別しそうな人には決して本当のことは怖くて言えない。



もしかすると、幼小中高問わず、子供たちの中にも違和感をおぼえる子が存在しているかもしれません。自分らしく生きられる社会や学校であるように、環境づくりを進める必要もありそうです。例えば、男女で違う黄色い帽子や男女の色の区別など、固定観念からの脱却が求められているのかもしれません。



## 【平和ポスター絵画コンクール 入賞者】

優良賞 2年 I.Hさん  
佳作 2年 A.Cさん

## ■■■ 平和ポスター展を開催します ■■■

12/12～12/24 開催（月曜休館）  
メディアパーク市川1F エントランスホール